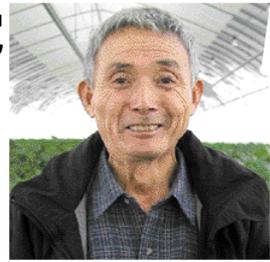




子供の目の高さになっているので、誰でも摘み取りが簡単にできる

「内山いちごの国」  
代表 荒木満さん  
養父町



「えっ、これがイチゴ畑！」目の前に広がるのは、大人の腰の高さにぶら下がったイチゴたち。ここ養父町長野にある「内山いちごの国」は、子供も大人も立ったままイチゴが摘める「高設栽培」を導入した、全国的にも珍しいイチゴ園だ。

高齢化が進むこの地域に活気を与えようと地元有志が立ち上がり、平成15年1月にオープンした。

代表の荒木満さんはこう語る。「お年寄りの元気がなくなっていく姿を見て、とにかく寂しい思いがしました。自分たちの生まれ育った村を埋もれさせたくないという気持ちが強

## 甘い<sup>莓</sup>で村おこし 過疎化に悩む 小さな村の熱い挑戦

間ばかり。仕事から帰ると夜中までイチゴの勉強、そして、休日には全国各地の有名なイチゴの産地に出かける日々が続いた。

「あの頃が一番きつかったですね。温度調整や養液注入もコンピュータ管理、また土も使わないので、素人でも取り組みやすい栽培方法ですが、そつはいつでも相手は自然のもの。始めは試行錯誤の連続でした」

そんな努力の甲斐あって、大粒で甘いイチゴだとお客さんの評価も上々。最近では、二度、三度と訪れる常連さんが増え、予約を受けられない日もあるそうだ。

最後に、「村おこし」で大切なことを聞いてみた。

「大事なことは住民が『楽しい』と思えるか。少しでも負担に感じたなら、村おこしの意味がないと思います。信念をもって恐れずに進めば、道は開けるものですよ」

栽培方法は土を使わないロックウール方式を採用。摘み取ったイチゴを洗わずに食べるのができ、また、通路を広くとれるために車イスでの利用も可能で、京阪神方面から多くの来園者で賑わいをみせている。

そんな大型観光バスが頻繁に訪れる人気の観光農園も、開園にこぎつけるには大変な苦労があったという。メンバーはすべて仕事をもちサラリーマンで、もちろん農業経験のない人

今後は周辺の村とも協力して、この地域を都市と農村の交流の場となるように頑張っていきたいとのこと。笑顔に囲まれた小さな村の挑戦は、まだまだ続く。

**IMAGE GRAPHICS**

写真やイラストなど、あらゆる印刷物に活用できる。最新の印刷技術に合わせた、最先端のグラフィック制作サービス。

# 街を彩る。

さまざまなイメージを的確に伝える多様な印刷品。今、街がグラフィックに変わる。

カラービジョンバス

様々な印刷サービス

冊子・パンフレット  
ポスター・チラシ  
名刺・封筒  
カレンダー・年賀状  
のりこみシート

山見印刷グループ

**Quick Quality Cost**  
**山見印刷株式会社**

【本社・IPDシステム・マーケティング事務局】  
兵庫県姫路市東町北野5-1 TEL.0798-42-1200 (F)

【ホームページ】http://www01.nkusanishi.co.jp/consulting/

【e-mail】team@mkp.nkusanishi.co.jp

【姫路支社】TEL.0793-23-4000 (F) 【神戸支社】TEL.078-294-6600

【京都支社】TEL.075-863-2977

# 御田植祭

伝え継がれる村の宝  
悠久の歌声にのせて  
五穀豊穰の祈りを込める

田植えシーズンが本格的に始まる前の4月29日に行われる豊岡市佐野の「御田植祭」は、名前のとおりその年の五穀豊穰を祈願する祭り。佐野・上佐野・納屋の3地区の氏神として鎮座する雷神社で、毎年奉納されている。

神社の歴史はかなり古く、貞観13年(871)にすでに五穀豊穰の神様として創立されており、いつの時代か菅原道真公の没後、公の勲を徳とし、天神として合わせて祀られたと伝えられてきた。

現在の本殿は明暦2年(1656)再建で、昭和40年に県の重要文化財に指定されている。

祭り当日の朝は、まず拜殿で宮司さんによる祝詞、玉串のお払いといった神事が行われ、その後、いよいよ「御田植祭」が幕を開ける。

まずは境内に出た氏子が神前の「和泉桜」の枝を授かり、円陣を作る。続いて、烏帽子、白装束の牛使い役

が、輪の中で田すきを持って土をならすしくさをした後、全員で唄を歌いながら桜の葉を投げ込む。そして大・中・小の水田3カ所と同じ動作を繰り返して、豊作祈願は終了。葉を投げるのは、田に苗を投げ入れるしくさを表し、葉を摘み取った枝は、各自が持ち帰って自分の田のあぜに立てお守りとする。

和泉桜の葉を使うのは、祭りをを行う時期にいちばん葉が青々と茂っていて、苗に似ているから。そんな昔の人のこだわりから、豊作を願う当時の気持ちや伝わ

平成8年には、

「法花寺万歳」

「奈佐節」「御田植

祭」と、豊岡市の三大無形文化財

となり、忠実に普通りのしきたりを守り、次の

世代へと受け継がれている。

「とんとんとんぎす おん野が咲いて おん野はとるな...」これは祭りで歌われる祝詞の一節。歌詞には野花を大切にすれば三つ葉が咲いて四つ葉になり、若葉がすくすくと育つて豊かな大地になるという意味が込められている。

自然を大切にしようという願いは、昔も今も変わらないことを教えてくれる。

協力：雷神社・総代 小松進さん  
豊岡市教育委員会



稲の成長を願い、心を込めて代かきをする牛使い役。その後、祝詞を歌い、周囲を囲む氏子たちが、円の中心に稲の苗に見立てた和泉桜の枝を投げ入れる。



夢を現実に...

きものサロン けいたに

- 着付け教室 ●きものマナー教室
- きものトータルコーディネイト

豊岡市福田1887-1 電話 24-9239

フリーダイヤル 0120-529-008